

岐阜小学校の総合的な学習の時間 <岐阜まちタイム>

1 総合的な学習の時間（岐阜まちタイム）の目標

(1) 総合的な学習の時間の目標（育成を目指す資質・能力）

岐阜小学校では、学校教育目標を以下のように設定している。

心豊かで 自ら求め 学び合う 岐阜小の子

以上の目標を達成するために総合的な学習の時間（岐阜まちタイム）の目標を次のように設定した。

- (1) 地域の人、もの、ことに関わる探求的な学習の時間の過程において、課題の解決に必要な知識・及び技能を身に付けるとともに、文化、歴史、自然などのよさに気付き、それらが人々の努力や工夫によって支えられていることに気付く。 「知識及び技能」
- (2) 地域の人、もの、ことの中から課題を見だし、その解決に向けて仮説を立てながら、体験して得たものや、資料などを基に考えたりする力を身に付けるとともに、考えたことについて、根拠を明らかにしてまとめ・表現する力を身に付ける。 「思考力・判断力・表現力等」
- (3) 地域の人、もの、ことについての探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、持続可能な社会を実現するための行動の仕方を考え、社会とのつながりを実感し、自ら社会に参画しようとする態度を育てる。 「学びに向かう力・人間性等」

(2) 目標設定の理由

① 2030年を生きる子どもたちに付けたい力

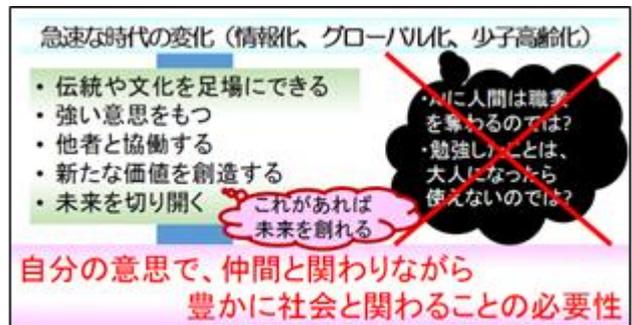
現在の小学生が活躍する2030年の社会は、今以上にグローバル化が進み、多くの人とよりスピーディーに関わったり、1つの出来事が広範囲かつ多様に構築されたりしていくと予想される。また、子どもたちの約6割が、存在していない職業に就くといった予測もされるなど、従来の考え方や方法では解決できなかつたり、先を見通したりすることは今後更に難しくなると思われる。

このような未来を生きていく子どもたちだからこそ、よりよい社会や幸福な人生を、多くの人と関わり合いながら、自らの力で創り出していくための基盤となる力を付けていくことが必要であると考えている。

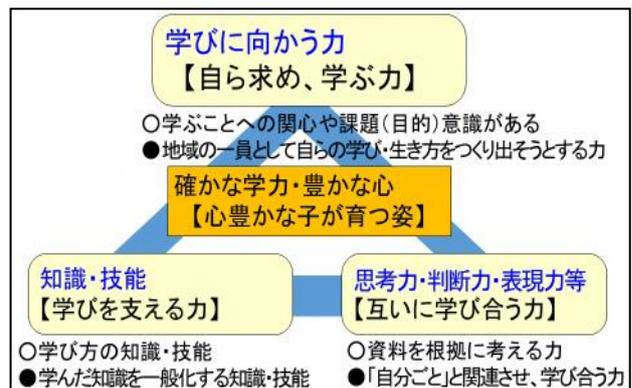
② 岐阜小学校の児童の実態

岐阜小学校の児童の実態を昨年度の学習状況調査や岐阜市で毎年実施される「学習状況のアンケート」を基に分析すると右の図2のようなことが明らかになった。

このアンケートを基に、総合的な学習の時間においても、自ら課題を見つけ、追究し、表現することを通して、自らの生き方につなぐ学習が大切であるとする。



【図1：2030年に付けたい力の模式図】



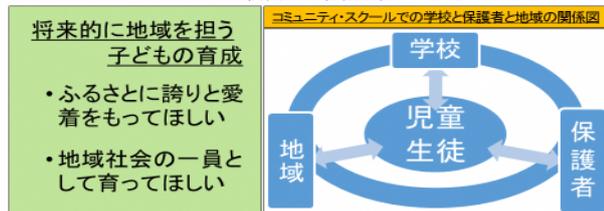
【図2：3観点を基に把握した児童の実態】

③ 地域の願い

岐阜小学校 学びにおける3つの柱 ～主題設定の理由～

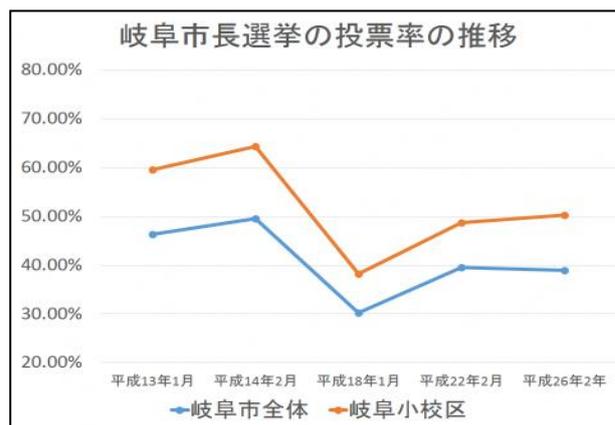
3. 地域の願いから ～地域と共に育つ学校～

地域の現状・・・少子高齢化(高齢化率の高い地域)
まちづくり委員会や各種団体による地域活性化



強力な地域のバックアップ

【図3：岐阜小学校と地域とのつながり】



【図4：岐阜市長選挙の投票率の推移】

上のグラフ（図4参照）を見ると、岐阜市長選挙における投票率が岐阜市の平均と比べて約10%も高い結果につながっている。これは、自分たちの生活をよくしようと主体的に活動しようとする動きが、大人になっても生きて働いているものだと考えている。

また、その要因として、岐阜小学校は、地域とのつながりが強く、地域の課題を解決するために地域全体で活動してきた経緯があることが影響しているものと思われる。（図3参照）

こうした視点から、学校教育全体において目指す子どもの姿を次のようにとらえた。

よりよい社会の実現を目指して、地域、仲間と共に学び合いながら、自らの力を発揮していく姿

上記の姿を具現するために、子どもたちに、学んだ知識・技能を活用する力、地域の人々や学校の仲間と関わり、学び合えるための対話の力、ふるさとに誇りをもち、よりよい社会の実現のために、自ら創り出していく力が必要だと考えた。それが、総合的な学習の時間の目標にも関連している。

2 総合的な学習の時間（岐阜まちタイム）の内容

（1）岐阜小学校での内容の系統性

① 岐阜小学校としての総合的な学習の時間の内容について

岐阜小学校全体の総合的な学習の時間のテーマは以下の通り。

私たちのふるさと「岐阜まち」と共に生きるためには（仮称）

3～6年生の総合的な学習の時間を通して、子どもたちが、「ふるさとが大好き！」「だからもっと知りたい！」という思いをもち、自ら社会に参画しようとする態度を育てるためには、世界を見て、大きく考えるべきであるが、その一方で実行できることは足元から1つずつ積み重ねるという「Think Globally, Act Locally」の考え方のもと、地域の一員として活動を行うことが大切だと考える。

なお、奈良教育大学の名誉教授である田淵五十生氏は、地域を扱うよさとして以下の4点を挙げている。

- 今日的な課題は、地域にある。
- 地域に正対することにより、地域の教育力を高められる。
- その教育力を生かすことで、より確かな認識を得られる
- この学習を通して、子どもの個性や誇りを育てることができる。

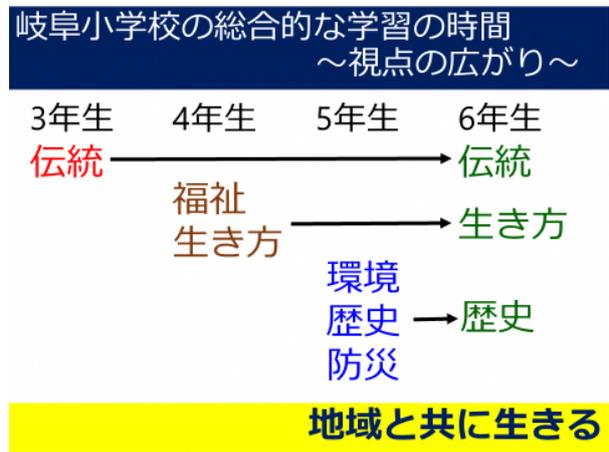
② 岐阜小学校の内容の系統，発展について

岐阜小学校では，3年生は岐阜小学校区の地域の人々を，4年生では岐阜小学校区の地域にある施設を，5年生では長良川を，そして，6年生では岐阜小学校区すべて活動の場所となり，学年を経て学ぶ位置や空間が広がっていく。(図5参照)

その上で，子どもたちは，地域の伝統，福祉，防災，そして生き方を発達段階に応じて繰り返しながら学習を進めている。(図6参照)



【図5：学年ごとの地域の広がり】



【図6：学年に応じた視点の広がり】

(2) 各学年の内容

① 3年生の内容

◆テーマ：地域の文化を守りながらのまちづくりに力を注ぐ人々

◆育てたい資質能力

【知識及び技能】

・身近な地域において，よりよい生活ができるための文化が根付いていることを理解することができる。

【思考力・判断力・表現力等】

・地域の文化を守るために力を注ぐ人と触れることで課題を見だし，解決のために必要な情報を収集し，事実を把握した上で，相手や目的に応じて分かりやすくまとめ，伝わりやすい表現ができるよう，見通しをもって学習を行う方法を考えることができる。

【学びに向かう力・人間性等】

・主体的・協働的に学習に取り組むとともに，進んで校区の文化と地域の方のすばらしさを感じ取っている。

◆主な内容

- ・前期：岐阜まち博士になろう①
- ・後期：岐阜まち博士になろう②

前期						後期					
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校のまわりの探検						岐阜まちの歴史調べ			よりよい岐阜まちをつくる人		

※ 4月から行う学校のまわりの探検が，社会科「岐阜市の様子」とつながっている。

8月から行う，岐阜まちの歴史調べ，よりよい岐阜まちをつくる人が，社会科「岐阜市の移り変わり」と4年次社会科「自然災害を防ぐ」「県内の特色ある地域の様子」とつながりをもつ。

※ ここで学ぶ「岐阜大仏」「妙照寺」の学習が6年生の総合的な学習につながっている。

② 4年生の内容

◆テーマ：地域の施設で活躍する、身の回りの高齢者、障がい者、成年の方から学ぶ生き方

◆育てたい資質能力

【知識及び技能】

- ・身近な人たちが豊かな生活ができるように工夫しながら生きていることに気付くとともに、それを支えるまちづくりが行われていることを理解することができる。

【思考力・判断力・表現力等】

- ・地域の施設で活躍する多くの人々に関わることを通して、課題を見だし、解決のために必要な情報を収集し、より豊かな生活のあり方を把握した上で、相手や目的に応じて分かりやすくまとめ、伝わりやすい表現ができるよう、見通しをもって学習を行う方法を考えることができる。

【学びに向かう力・人間性等】

- ・主体的・協働的に学習に取り組むとともに、地域の方のすばらしさを感じ取った上で、自分の生活に生かそうとしている。

◆主な内容

- ・前期：誰にでもやさしい町の仕組みを知る。
- ・後期：地域の方から豊かに生きることを学び、自己の生き方につなぐ

前期							後期					
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
誰にでもやさしい町							大切な命			これからを生きる私		

※3年次（11月）に行う、岐阜まちの歴史（川原町の探検）の学習が、社会科「自然災害を防ぐ」とつながっている。また、3年次（2、3月）に行う、よりよい岐阜まちをつくる人（うつばやを守る人、伊奈波神社の例祭を営む人）の学習が、社会科「県内の特色ある地域の様子」の授業を行う際につながっている。

※ここで学ぶ「これからを生きる私」の学習が5年生の総合的な学習に、「やさしい町」「これからを生きる私」の学習が6年生の総合的な学習につながっている。

③ 5年生の内容

◆テーマ：長良川と密着した生活を営んできた人々と地域社会

◆育てたい資質能力

【知識及び技能】

- ・身近な人々がより豊かな生活ができるように、歴史や環境を大切にしたり、防災を意識したりしながら生活をしていることを理解することができる。

【思考力・判断力・表現力等】

- ・長良川と共に生活を営んできた方と共に活動することを通して、課題を見だし、課題解決のために、問題の本質を把握した上で、目的に応じて、様々な立場の人に分かりやすくまとめ、伝わりやすい表現ができるよう、見通しをもって学習を行う方法を考えることができる。

【学びに向かう力・人間性等】

- ・主体的・協働的に学習に取り組むとともに、歴史や環境を守ることの大切さ、防災のための行動の必要性を感じ取った上で、自分の生活に生かそうとしている。

◆主な内容

- ・前期：岐阜小校区にある「長良川」の歴史や環境を守る人々の営みを学ぶ。
- ・後期：長良川の防災について知る。
地域の一員として、安全なまちにするためにどう行動するか考える。

前期						後期						
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
長良川を知る		長良川と鮎				長良川の環境		長良川と防災		これからの私		

※長良川を知る学習が、社会科「水産業の盛んな地域」「これからの食料生産」とつながっている
 鵜飼について学ぶ学習が、社会科「我が国の産業と情報との関わり」とつながっている
 長良川の防災について学ぶ学習が、社会科「我が国の国土の自然環境と国民生活の関わり」とつながっている。

※ここで学ぶ「長良川の歴史」「鵜飼の歴史」の学習が6年生の総合的な学習につながっている。

④ 6年生の内容

◆テーマ：「岐阜まち」と共に生きるわたしたち											
◆育てたい資質能力											
【知識及び技能】											
・「岐阜まち」の特色やよさを、日本の他地域と比較した上で理解することができる。											
【思考力・判断力・表現力等】											
・これまでの学習などから自ら課題を見だし、解決のために必要な情報を収集し、他地域と比較・関連・総合させて考えることで「岐阜まち」のよさを把握した上で、目的に応じて、様々な立場や地域に住む人に分かりやすくまとめ、伝わりやすい表現ができるよう、見通しをもって学習を行う方法を考えることができる。											
【学びに向かう力・人間性等】											
・主体的・協働的に学習に取り組むとともに、地域のよさを知った上で、地域の一員として、自分の住むまちに誇りをもつとともに、地域の発展のためにすべき行動をとろうとしている。											
◆主な内容											
・前期：「岐阜まち」の文化財の特色やよさを、他地域と比較して考える											
・後期：「岐阜まち」に生きる人物のよさを知る。「岐阜まち」のよさを発信する。											
前期						後期					
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
「岐阜まち」の人物や文化財の日本、地域とのつながり									「岐阜まち」のよさを発信		

※「岐阜まち」の由来を調べる活動が、社会科「織田・豊臣の天下統一」の学習につながっている。
 「岐阜まちに息づく人々」を調べる活動が、社会科「世界に歩み出した日本」の学習につながっている。

3 総合的な学習の時間（岐阜まちタイム）におけるカリキュラム・マネジメントの考え方

今回の学習指導要領では、学校教育の充実を図るために「カリキュラム・マネジメント」を充実させることが求められている。その3つの側面を大切にしながら授業を展開させることで、総合的な学習の時間がより充実したものになると考える。

(1) 教科等横断的な教育活動

教科等横断的な学習は、特に総合的な学習の時間において大切であることが、学習指導要領に記されている。その中でも、社会参画を考える社会科との関連は重要だと考えている。また、社会科以外の強化との関連、学習の基盤となる学び方との関連を図ることで、より効果的な学習が行える。

① 社会科との関連

前述（各学年の内容）の部分に、社会科との関連を入れているが、各学年で実施する社会科と総合的な学習の時間との関連を以下のように示した。

3年生	4年生	5年生	6年生
(1) 身近な地域や市区町村の様子 (2) 地域に見られる生産や販売の仕事 (3) 地域の安全を守る働き (4) 市の様子の移り変わり	(1) 都道府県の様子 (2) 人々の健康や生活環境を支える事業 (3) 自然災害から人々を守る活動 (4) 県内の伝統や文化、先人の働き (5) 県内の特色ある地域の様子	(1) 我が国の国土の様子と国民生活 <u>※長良川の位置</u> (2) 我が国の農業や水産業における食料生産 <u>※長良川と鮎の漁法</u> (3) 我が国の工業生産 (4) 我が国の産業と情報との関わり <u>※長良川鵜飼の情報化</u> (5) 我が国の国土の自然環境と国民生活の関わり <u>※長良川と防災</u>	(1) 我が国の政治の働き (2) 我が国の歴史上の主な事象 <u>※岐阜まちの伝統ある文化財、人物</u> (3) グローバル化する世界と日本の役割 <u>※岐阜まちの伝統を発信する活動</u>

② 社会科以外との関連（国語科、算数科などの教科、特別活動、道徳）

総合的な学習の時間では、探求的な見方・考え方を働かせ、課題追究をしていく時間であり、それを効果的に果たすためには、資料などを効果的に分析・活用したり、考えたことをまとめたり、伝えたりする必要がある。それを考えると、国語科、算数科とも関連させながら指導することが大切だと考えた。

特に国語科では「話す・聞く」の領域で、算数科で「D データの活用」の領域での関連について、以下のように示した。

	3年生	4年生	5年生	6年生
国語	事実・考えの根拠を話す ・「私は～だと思います。それは（なぜなら）、～だからです。」 ・「私は◆◆さんの意見に賛成（反対）です。それは（なぜなら）、～です。」	くわしく話す ・「私は～だと思います。2つ理由があります。1つ目は…。もう1つは…だからです。」 ・「私は◆◆さんの意見に賛成です。それは（なぜなら）、◆◆さんの～が同じだからです。」	目的や意図をもって語る、説得する、折り合いをつける ・「私は～だと思います。それは（なぜなら）、私だったら～だと考えるからです。」 ・「◆◆さん、■■さんの話をまとめると…◇◇のことが言えると思います。」	立場を明らかにした主張（反論の答えまで） ・「私は◇◇だと思います。それは～だからです。きっと～なこともあると思いますが、それでも、～がいいと思うので◇◇にします。」 ・「私は◆◆さんの～についてつけたしで、◆◆さんは～と言っていたけど、…な点をつないで考えると～がより詳しく言えると思います。」
	受け止めて聴く 発言者の考えを、比べながら聞き、ハンドサインを示す。（つけたしなど）	寄り添って聴く 発言者の考えを、「同じ」「違う」「似ている」などの聴き方で具体的に聴く。ハンドサインでつなぐ。「〇〇さんの～につけたしで…」	目と心で聴く 発言者の考えを、「教科の視点」「立場」を基に内容まで聞き比べ、折り合う。	十四の心で聴く 発言者の考えを、相手の意図をくみ取りながら聴き比べ、まとめる。

算数	ぼうグラフと表 (資料を分類して表に整理したり、棒グラフや二次元の表に表したり読んだりする。)	整理の仕方 (分類の観点に着目して二次元の表を読み取ったりする。)	帯グラフと円グラフ (帯グラフや円グラフから、全体と部分、部分と部分の関係を読み取ったり、資料をもとに変化のようすを工夫してグラフに表したりする。)	資料の調べ方 (資料の散らばりを表した度数分布表や柱状グラフを見て、資料の特徴を考察し、説明することができる。) ※発展学習でドーナツグラフやレーダーチャートなども扱うことができる。

③ 総合的な学習の時間を支える、基盤となる学び方

総合的な学習の時間では、探究的な見方・考え方を働かせて学習を進めていく。

その上で、総合的な学習の時間のねらいを達成するためには、教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、に固有な見方・考え方を働かせることである。それは、特定の教科等の視点だけで捉えきれない広範な事象を、多様な角度から俯瞰して捉えることであり、また、課題の探究を通して自己の生き方を問い続けるという、総合的な学習の時間に特有の物事を捉える視点や考え方を達成させるためにも、基盤となる学び方が必要である。

その中でも、岐阜小学校では、次の学び方を大切に行っている。

ア	「話す・聴く」の学び方
イ	「書く」学び方
ウ	「比較・関連」などの思考ツール
エ	「ICT 機器」の活用

ア 「話す・聴く」の学び方

岐阜小学校では、「話すマネジメント・十四の心で聞くステップ」を大切に、学習を進めている。

「話すマネジメント」は、国語の指導事項を参考にしながら、発達段階に応じて、どんな話をするかよいかを明らかにした。「十四の心で聞くステップ」は、子どもたちの発達段階に応じて、学校独自で聴き方を考えたものである。

これらを行うことによって、子どもたちは、考えたことをより豊かに語るができるようになるため、総合的な学習の時間のねらいの達成へ近づくことができている。

イ 「書く」学び方

岐阜小学校では、授業のまとめ、課題追究の際のノートの書き方を指導している。

授業のまとめでは、「キーワードを使って、課題に対する答えや考えをまとめる」「自分との関わりでこれからの自分についてまとめる」書き方を行っている。

また、課題追究の際には、高学年（4年生以上）ではウェビング法を活用したノートの作り方をすすめる児童もいる。これが、総合的な学習の時間で行う、グループ追究などに生きている。

ウ 「比較・関連」などの思考ツール

学習指導要領には、総合的な学習の時間で行う思考ツールが記されている。

- | |
|-----------------------------------|
| ○ 順序付ける |
| ・ 複数の対象について、ある視点や条件に沿って対象を並び替える。 |
| ○ 比較する |
| ・ 複数の対象について、ある視点から共通点や相違点を明らかにする。 |

- 分類する
 - ・ 複数の対象について、ある視点から共通点のあるもの同士をまとめる。
- 関連付ける
 - ・ 複数の対象がどのような関係にあるかを見付ける。
 - ・ ある対象に関係するものを見付けて増やしていく。
- 多面的に見る・多角的に見る
 - ・ 対象のもつ複数の性質に着目したり、対象を異なる複数の角度から捉えたりする。
- 理由付ける（原因や根拠を見付ける）
 - ・ 対象の理由や原因、根拠を見付けたり予想したりする。
- 見通す（結果を予想する）
 - ・ 見通しを立てる。物事の結果を予想する。
- 具体化する（個別化する、分解する）
 - ・ 対象に関する上位概念・規則に当てはまる具体例を挙げたり、対象を構成する下位概念や要素に分けたりする。
- 抽象化する（一般化する、統合する）
 - ・ 対象に関する上位概念や法則を挙げたり、複数の対象を一つにまとめたりする。
- 構造化する
 - ・ 考えを構造的（網構造・層構造など）に整理する。

エ 「ICT 機器」の活用

探究的な学習を行うためには、情報を収集したり、活用したり、調べたことをまとめたりすることが必要である。それらを効果的に進めていくためには、ICT 機器の活用は外すことができないものである。

岐阜小学校では、情報教育全体計画を作成し、学年の発達段階を基に、下の図の内容が定着できるように学習を行っている。

	1, 2年	3, 4年	5, 6年
基本的 操作の 習得	PC, タブレットPCの基本操作 ・電源 ON, OFF ・カメラ機能 ・インターネットの検索, 保存など		
		ワープロソフトを活用した文字入力, およびその活用	
			プレゼンソフトの基本操作・活用
	みんなの学習クラブ (I プリ), e-ライブラリなどの操作・活用		
主体的・対話的・協働的な学びを生むための情報機器の操作・活用 (電子黒板・実物投影機・デジタル教科書など)			
プログ ラミング 学習	Pepper と慣れ親しむ プログラミング学習の基礎		総合的な学習の時間におけるプログラミング学習 ・4年～5年次「Pepper Blocks」 ・5年～6年次「Choregraphe」を活用して
	教科におけるプログラミング学習 (算数科・理科・音楽科など)		
情報 モラル	発達の段階に応じた, 情報モラル教育		

これらの学習を行うことを通して、課題追究の際にどの手段で情報を集めるのが効果的なのか、また、他者に伝える時に、どのような方法を使うことが相手にとって分かりやすいのかを子どもたち自身で考えることができるようになる。

(2) 教育課程の実施状況の評価とその改善 (PDCA サイクル)

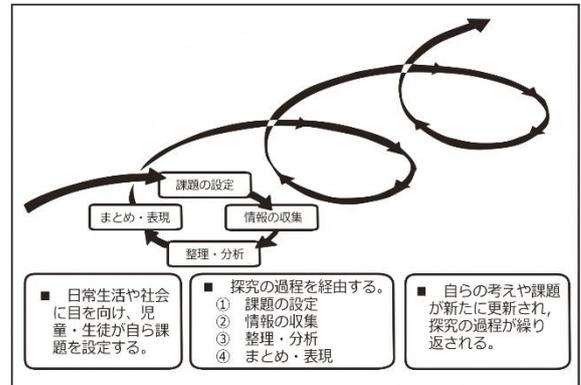
岐阜小学校の総合的な学習の時間では、全体計画と年間計画を基に PDCA サイクルを行い、よりよい授業改善を進めている。その際、次の2つが行えるかどうかで見極めを行っている。

① よりよく課題を解決する学習

総合的な学習の時間では、右の図7のようにしながら学習を進めていく。そのプロセスを支えるものが「探求的な見方・考え方」である。

子どもたちは探求的な見方・考え方を働かせながら、よりよく課題を解決していくが、学習過程の中で児童の追究が思うように進まなかったり、表現できなかったりする場面がある。

そこで、年度末に年間指導計画を検討する場を設けた上で、次年度の年間指導計画やそれに伴う単元指導計画をつくるようにしている。



② 自己の生き方を考える学習

総合的な学習の時間では、自然と社会との関わりにおいて自分が何を学び、何をすべきか考え、行動できるような学習を進めていく。

そこで、どの学年でも年度末に、子どもたち自身で学んだ成果を表現する場を設けるが、それによって自己の生き方につながっているかを検討しながら、次年度の年間指導計画に反映するようにしている。また、児童の実態に応じて、指導をする際に内容を変更することもある。

つまり、どの学年もねらいに達成するために、全体計画や年間指導計画を作成し、指導を進めているが、児童の実態や追究の様子を見ながら、よりよく課題を解決したり、自分の生き方を考えたりするために、指導のあり方を計画し、実践したことを検証し、次年度の指導計画に反映させるようにしている。

(3) 教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制の確保

① 総合的な学習の時間を支えるコミュニティ・ティーチャー

岐阜小学校では、開校時からコミュニティ・スクールとして学校運営を行っている。そのため、地域とのつながりも強く、授業では、外部講師をお願いすることも多くある。そのため私たちは、地域の外部講師の方をコミュニティ・ティーチャー (CT) と呼び、ともに授業を作っている。

なお、以下の表は各学年で外部講師をお願いする方の一例である。

3年生	4年生	5年生	6年生
<ul style="list-style-type: none"> ・ 正法寺の住職 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 盲学校の先生 ・ 産婦人科医の医師 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市役所環境課 ・ 国土交通省 木曽川上流河川事務所 ・ 金華水防団の方々 ・ 鶺鴒乗船事務所 (鶺鴒) など 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市役所まちづくり課 ・ 正法寺, 妙照寺の住職 ・ 歴史博物館 学芸員 ・ 美江寺の住職 ・ 市役所 社会教育課 など

③ 総合的な学習の時間を支える ICT

総合的な学習の時間で、探求的な学習を進めていくために、ICT の活用を欠かすことができない。

そのために、岐阜小学校では、教師も子どもも自由にパソコンやタブレット PC を使用することができるように、教室配置やパソコンやタブレット PC の利用方法を決めている。(写真1, 2参照)



【写真1：メディアセンターで自由に使えるパソコン】



【図6：子どもたちが責任を持って使えるタブレットパソコン】